



245号

2020年

6月29日

発行所 岡山大学職員組合

〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1

電話 086-252-1111 (代)

7168 (内線)

直通 TEL&FAX 086-252-4148

ホームページ <http://hb4.seikyoku.ne.jp/home/ODUnion/>

メールアドレス [ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp](mailto:ODUnion@mb4.seikyoku.ne.jp)

目次： 1~2：新型コロナウイルス関連 2~3：学生からの寄稿 4~6：非常勤講師アンケートまとめ  
6~7：休暇に関する変更について 7：紙上フラワーアレンジメント講習 8：旅日記

## 新型コロナウイルス関連アンケートを実施します

2020年当初から世界を揺るがしている新型コロナウイルスは、2020年6月現在、日本においては第一波が収束したとみなされています。それに伴い2020年3月ごろから新型コロナウイルス対応として活動制限をしていた岡山大学の業務も徐々に通常業務に戻りつつあるところです。



今回の岡山大学の活動制限は私たちにとって貴重な体験だったと思います。今後予想されている新型コロナウイルスの第二波、第三波、あるいは他の未知の危機においても岡山大学が大学としての機能を十分に果たせるようにするために、今回の経験を適切に活かす必要があると考えます。

そこで、二つのアンケートにご協力をお願いいたします。

一つ目は全国大学高専教職員組合（全大教）が実施している「**新型コロナウイルス感染症への対応下での労働実態・教育研究状況アンケート**」です。全大教は国立大学・高専・大学共同利用機関の組合の連合体で、岡山大学職員組合も加盟しています。このアンケートは新型コロナウイルス感染症への対応下、具体的にはこの4月5月ごろのみなさんの働き方についてのアンケートです。例年に比べて労働負荷が高かったか、どのような業務が増えたのか等の質問があります。ページ下部の左側のQRコードからご回答ください。全大教

はこのアンケートの結果を文科省に持って行き大学の状況を訴える等の活動を行う予定です。アンケート対象者は組合員であるかどうかを問わず全国の国立大学・高専・大学共同利用機関の医療系を除く教職員です。なお、医療系の方は、別途アンケート実施予定です。



二つ目は岡山大学職員組合が実施する「**新型コロナウイルスによる活動制限経験を今後活かすためアンケート調査**」です。こちらはすべて自由記述のアンケートで、2020年3月ごろから6月までの活動制限中にみなさんが感じられたことを教えていただくことを目的としています。例えば普段私たちが行なっているさまざまな業務のうち、どれが必要不可欠な業務でどれが後回しにしてよい業務なのか、あるいはどれが本来は不必要な業務なのか、新型コロナウイルスによる活動制限で、私たちはそれを否応なく考えさせられたのではないのでしょうか。そのときに感じられたこと、考えられたことを率直にお書きください。今後の岡山大学職員組合の活動の参考にさせていただきます。アンケート対象者は岡山大学の構成員すべて（大学院生・学生も含む）です。ページ下部の右側のQRコードからご回答ください。

ご協力よろしく申し上げます。どちらのアンケートも回答は7月末まで受け付けています。組合のホームページからも回答できます。

### 全大教アンケート

[https://zendaikyo.or.jp/?page\\_id=2198](https://zendaikyo.or.jp/?page_id=2198)



教員用



事務職員、技術職員用

アンケートにご協力  
をお願いします。

### 岡大職組アンケート

<https://forms.gle/VtinMRTHyuk2Lcfu8>



岡山大学全構成員用

どちらも  
締め切り  
は7月末  
です

## 学生からの寄稿～新型コロナ対応について

新型コロナウイルス対応特集号であった組合だより 244号 (PDF 配布のみ) を見て、岡山大学の学生の方から寄稿をいただきました。一学生のご意見としてここに掲載させていただきます。寄稿ありがとうございました。



はじめまして、岡山大学学生です。私は、岡山大学(以下、本学)の新型コロナウイルスへの対応に疑問を抱き活動しています。先日、職員組合の方とオンラインで懇談させていただきました。その際にお話しさせていただいたことや友人などから集めた学生の意見をこちらの組合だよりに掲載させていただけることになりました。私たちの声をこちらに掲載していただけることにお礼申し上げます。

本学の対応について、「初期対応はよかったの」というのが本音です。確かに本学は他大学に先駆けてキャンパス立ち入り制限とオンライン授業の導入を決め、感染症対策に非常に優位な取り組みを行っていたと思います。また、オンライン授業開始時にはサーバーダウンこそあったものの、それが「予想される事態であること」「それが不利益を及ぼさないよう取り計らうこと」が明言されており、このあたりの対応もとてもよかったと感じています。本件を担当されている方には頭の下がる思いです。

こうした「初期対応の良さ」にもかかわらず、学生からは不満の声が多くみられます。その中でも、「オンライン授業による質の低下」「本学の行う学生支援」「学費」の三点について書かせていただきます。

まず、オンライン授業の質についてです。オンライン授業導入後友人に話を聞いたところ、いくらかの好意的な声が見られました。それは、講義がオンライン動画になり、一時停止や繰り返し視聴が可能であり授業の要点がわかりやすく、復習などがやりやすくなったという意見でした。確かにオンラインにはこうした利点があります。しかしそれでも不満の声が多くあがるのは、その利点を全く活かしていない授業が大半を占めているためです。Moodle に講義のレジュメだけをアップし課題を課す授業や、中には「自習を前提としています」と明言し、Moodle で教科書のページを指定してそこを読んで課題を出すだけというものもあるようです。これを「オンライン授業」と呼称できるでしょうか。このことを伝えてくれた学生は、「さすがに絶句した。何が講義だ。これで親に学費を払ってもらっているのは申し訳ない」

と語っていました。確かにオンライン授業について、教職員の間でも技術や熱意に差があるとは思いますが、しかし、私たち学生は年間 50 万円以上の決して安くはない学費を納め、その対価として教育を受けています。特に、授業がほぼ必修で国家試験に直結している医歯薬系の学生や、教育系の学生などはひとつひとつの授業がとても大切になってきます。対面よりもいい部分も多分に持つオンライン授業。この利点が活かされた講義が二学期以降行われることを望みます。

次に、本学の学生支援についてです。本学は五月中旬、緊急生活支援金制度として学生一人に対し 3 万円を支給すると発表しました。これはマスクでも取り上げられ、学外の人間からは一定の評価を得たようです。しかし、学生からは全くと言っていいほど好意的な声はありませんでした。というのも、その申請条件はあまりに厳しいものだったからです。①下宿生で②当時実家に帰っておらず③家庭からの仕送り(家賃通信費含む)を受けず④奨学金ももらわず⑤社会人でなく⑥休学していないという条件でした。これを見た学生自身、またこれを聞いた学外の人の反応は決まっています。「え……これ誰が貰えるの？」そもそも、条件の③と④が背反していますし、これらの条件を満たす学生はおそらく 3 万円など焼け石に水であるほど困窮しているでしょう。また、支給を必要とする学生の数や 3 万円という額で支援足りうるのかなどの根拠が示されていません。これでは、せつかく大学が貴重な予算を投入して学生を支援しようとしても、本当に困窮している学生が救われるかどうか怪しいところです。

また、先日、学生支援課のメールを通じ全学生に送信されたメールがありました。内容は、もともと学生が独自に行っていた「新1年生やバイトができなくなった岡大生への食事支援」と銘打った無料の弁当配布企画に大学が支援をし、本学が弁当を購入。学生は弁当を無料で得られるというものです。しかし、10日間、300食限定という「食事支援」を名乗るにはあまりに限定的な数字です。また、配布は津島キャンパスのみで、鹿田キャンパスの学生はそちらまで赴かねばなりません。本件担当者に話を聞いたところ、「新入生支援が目

的なので鹿田の1年生も一般教養の授業で津島に来ているから問題ないだろう」とのことでした。しかし、鹿田生が津島に行くのは週二回、しかも現在はオンライン授業です。実質鹿田の学生は支援対象に含まれていないといえるでしょう。この企画の原資はみなさんからの寄付を集めた「学都基金」だとのこと。新型コロナウイルスへの対応のために集められたこの大切な資金が、一部の限られた人に対してではなく、広く学生を支援できる手段に使われるべきだと考えます。

その手段として、二つ例を考えてみました。まず一つ目が学生全員に一定のプリンタポイントを付与することです。オンライン授業になり、いままで配布されていたレジュメを自分で印刷しなければならなくなったという学生の声を多く聞きます。中にはトナー交換をすでに数回したという学生もあり、その費用は大きな負担となっています。プリンタポイントの付与であれば既存のシステムを流用でき、いずれの学生にもメリットがあるでしょう。二つ目がmomocaポイントを用いた学生支援です。緊急事態宣言解除を受け、生協食堂の営業は再開しています。すべての学生にmomocaポイントを一括付与するだけで、食に困る学生は食堂で食事を、またそうでない学生もオンラインで増加した出費を軽減することができるはずです。これらのように、困窮する学生への支援のほか、すべての学生を対象とした支援を行うことも必要なのではないでしょうか。

最後に学費についてです。学生は、大学に年間50万円以上の決して安くはない学費を納めています。しかしながら、先述のようにオンライン授業では著しく質が低下していると感じられるものがあります。また、図書館をはじめとした大学施設は長らく利用できず、部活動など正課外の活動もすべて制限されています。オンライン授業になったことで印刷費や通信費なども増加し、学生の費用負担は馬鹿にならなくなっています。そのような状況で、例年と同じ学費を納めなければならないのはおかしいのではないのでしょうか。

これまで、本学は「学生支援」と称して幾ばくかの取り組みを行ってきました。しかし、その対応はかなり限定的です。また、四月末に実態調査のアンケートを行って以降大学から公式な調査は行われていません。これでは、現在の学生の状況が四月末よりも良くなったのか、変わっていないのか、悪くなったのか、それすらもわからないでしょう。実態を把握しないまま、実質的な費用対効果を考えず、対外的に「岡大は学生支援をちゃんとしている」というイメージ付けができるものばかりを実行しているように思えてなりません。

これらのことを受けて、学生の立場から以下のことを望みます。

1. 支援の対象に線引きを設けない。  
このコロナ禍で困っているのは、本学に所属する「すべての学生」である。大学が勝手に決めた線引きで支援の対象を制限すべきでない。
2. 本学主導で継続的な実態調査を行う。  
学生の経済、生活状況については学部・学科に依るものではないと考えられる。本学は積極的に学生の実態を調査し、適切かつすべての学生に利のある支援を行うべきである。
3. 授業の質改善  
すべての学生は本学に授業料を納めている。言わば、お金の対価として教育を受けている。それに見合った教育サービスを提供できるよう「学部学科に投げやりにしない」統一的な指標を求める。
4. 学費の減額・返還  
先述の通り、学生は本学の一連のサービス提供の対価として授業料を納めている。授業の質低下、施設利用不可、正課外活動制限など本来できていたことが全くと言っていいほどできていない状況で、今まで通りの授業料を支払う必要は学生にはない。よって、学費の減額および返還を求める。

岡山大学職員組合では、岡山大学の教職員の方、学生の方からのご意見をいつでもお待ちしております。



あなたも組合の仲間になりませんか？



教職員の給与・労働条件は、労使交渉で決まります！  
一人でも多くの皆様が加入していただくことで、  
労使交渉における組合の発言力は大きくなり、  
よりよい労働条件を実現していくことができます。

教員の方も、事務職員の方も、技術職員の方も、  
パートの方も、組合に入ることができます。

お申し込みは、各単組役員、もしくは組合事務所まで。  
メールからも、お申し込みできます。  
岡山大学職員組合 ODUunion@mb4.seikyoku.ne.jp

## 非常勤講師の皆さんにアンケートをお願いしました

岡山大学職員組合は、2019年度に終了予定だった非常勤講師授業開発手当の延長を大学に要求し、1年間の延長を実現させました。



しかし、2021年度からどうなるかはまだ不明です。もしこの手当てが打ち切られれば、実質上の賃金切り下げとなるばかりではなく、授業時間以外の労働が不払い労働となります。更なる手当継続の交渉をするために、非常勤講師の方々の労働時間について、1月にアンケート調査をお願いし、30名の方から回答を得ましたのでご報告します。

まず、授業以外にどれくらいの時間を準備に費やしているのかをお尋ねしました。回答者のうち80%の方が1時間以上を費やしていました。50%の方は1時間を超え、2～5時間を費やしている方もいました。内容は、教材作成、授業計画の作成、テストの作成と採点が最も多く、日々の課題や宿題への対応がそれに次いで多い結果となりました。多くの先生方が自分の時間を削って学生へのフィードバックをしています。非常勤講師の仕事は、単に授業だけをこなせばよいというものではないということは明らかです。

次に、担当コマ数の増減についてお尋ねしました。2019年度から語学系非常勤講師の担当コマ数が大幅に削減されたことを反映し、ご自身の希望に反して減ゴマされた方が、全体の半数近くいます。2020年度も、多くの方の希望に反して更に

持ちゴマ数が減らされています。非常勤講師の中には、専業非常勤と呼ばれる非常勤講師の掛け持ちだけで生計を立てている方もいます。その方たちにとって、希望に反した減ゴマは生活を脅かすもので、これ以上の減ゴマはぜひとも食い止めなければなりません。

最後に、60分4学期制についてのご意見もお尋ねしました。総じて否定的な意見が多く、岡山大学のシステム変更に合わせて苦勞されている様子が見られます。来年度のさらなる変更に関しても、情報が行き渡っておらず、誤解や不安が広がっています。

岡山大学では多くの授業を非常勤講師が担当しており、その大学への貢献度は決して無視できません。それにもかかわらず、非常勤講師の待遇は年々悪くなっています。それでも、学生のために授業時間以外の時間を使って授業の質を確保しようと努力されている姿をアンケートから読み取ることができました。また、今年度のオンライン授業に関しても、大きな負担がかかっていると思います。間もなく終了予定の「非常勤講師授業開発手当」がなくなれば、非常勤講師に長時間の不払い労働を強いることとなります。大学は、本校の教育を支えている非常勤講師の貢献を、今一度認識するべきではないでしょうか。組合は、大学に対し、「非常勤講師授業開発手当」の継続と増額を求めます。

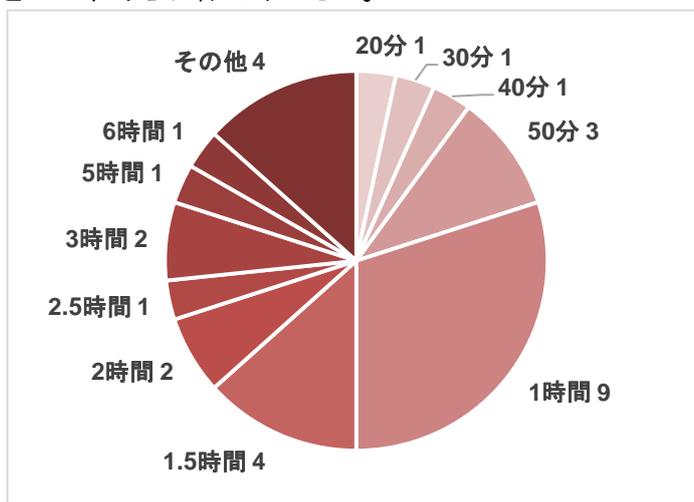


### アンケート結果の概略

Q あなたが1時間の授業をするために、どれくらいの時間を授業以外に費やしていますか。授業科目や時期によって違うと思いますが、学期を通した平均をお答えください。

<その他の内訳>

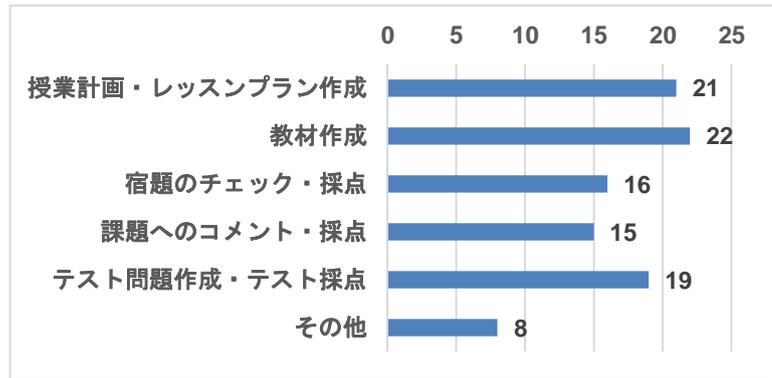
- ・1時間以上
- ・英語ライティング添削時、1クラス当たり5～6時間以上
- ・2～5時間 (2回答)



### Q その時間は主にどんなことに使っていますか。

<その他の内訳>

- ・生徒へのフィードバック
- ・宿題や課題のチェックは学生へのフィードバックとして重要であり、多くの時間を要する。テストの採点も同様。予習と復習。分野の研究進展状況を調べる。
- ・PPTの作成、資料の作成。
- ・教材研究、追試の作成・実施。
- ・Student emails/class management



### Q 60分4学期制やその他大学に対するご意見

類似のご意見は事務局で集約し、個人が特定される恐れのある情報は一部編集しました。また、英文でのご意見は日本語に翻訳しています。



- 多忙感のみが突出して目立ち、教育の質が劣化した。以前からもあったことだが、他曜日への振替授業への対応が難しく、一層、困難になった。補講自体も1学期内にできるかどうか微妙な状況である。4学期制自体に問題があるが、加えて1コマ60分では、とても授業の質が確保できない。
- 大学の授業をするには短い。高校のように知識重視になり、じっくり学業に取り組む姿勢が育ちにくい。
- やや遠方から来ているので、来校回数が減る部分は良かった。授業の充実度は少し下がった。
- 授業密度が濃くて準備が大変。優秀な学生だけがついてくる感じ。採点期間・頻度が大変。採点が250人だと、1週間以上必要。同時に授業準備。
- 時間拘束は、生徒も先生も大変でしょうが、私の授業は、この制度に慣れれば、90分×16回より、120分×16回ありますので、より生徒にお教えする時間配分が可能となっています。できれば、1学期+2学期に5限+6限で16回及び3学期+4学期の5限+6限で16回に増やしていただけると、効果的なアクティブ・ラーニングがこなせると考えますが。
- 週2回、60分×2ずつの授業を行っている。つまり120分の授業なので、かなり進む。学生たちの予習は不十分ようだ。(しかし以前もそのような学生たちは居た)
- 他の大学が90分授業であるのと比べて、やりにくいと不満をもらす先生が多い。まして50分になるということで、授業に対する意欲も削られていっているように思われる。特に外国人教師は批判を公言している。
- アンケートや試験の実施、成績評価などが年間4回というのは、かなり負担が大きいです。多忙すぎ。ゆっくりじっくり教える時間がない。
- 4学期制だとあっという間に一学期が終わり、とぎれとぎれのまとまりのないものとなりがちでした。ただ、忙しいだけという感じがします。90分前期、後期が望ましいのではないかと思います。
- 教員の負担は増加ですが、学生にとってはプラスになるかも。
- 従来と比較して、負担が重くなっているように感じている。その反面、学生の学習にとって積極的にプラスになったというデータは得られていない。
- 元の90分に戻していただきたい。各授業、単元が細分化されてしまい、学生の主体的な学びやアクティブ・ラーニングの時間が取りにくく、一回当たりの授業のまとまりが阻害されてしまう。学生も消化不良になっているのではないかと危惧する。また、4学期制にした効果があったのかどうか検証されているのでしょうか？4学期制にしたのは、秋入学への配慮、第2,3学期で長期留学促進などが、目的と聞いていますが、実際、学生たちが海外留学割合は、いかほどなのか知りたいところです。
- 語学の授業担当者にとって(初修系)、たとえ週2回の授業であっても、ペア授業で、時間制限(60分)や雑務(これまで以上の)に追われて、非常にやりづらい。
- 搾取ということばが、これほど相応しい状況はない。週70を超える労働時間が当たり前となり、土日、盆や正月もない。10月~2月中旬過ぎまで1日程度しか休めない。そこまで働かせておいて、実質的時間給を減らす。コマ数削減で年間収入の大幅限。2020年度は2019年度と比べ、数十万円マイナス。酷使の限りを尽くして労働を提供した者に報いない組織に未来はない。
- 反対です。90分・セミスター制に戻していただきたいです。理由は①1年に4回学期末があるので、

成績評価にかかる負担が大きい。特に1学期と3学期は、授業・試験作成、採点。次の授業の準備を並行して行うので、年間を通して休日はほぼありません。②特に、1年生の60分授業は大きな問題です。教育の低下をまねきます。90分や120分で行っていた内容を60分で行うというのは難しいので、以前できていた授業内での学習や活動を大幅に縮小、削減せざるをえなくなりました。実際学生たちから「テキストを全部学習したい」という要望が寄せられています。90分に戻すか、60分なら1年生も60分×2の授業時間の確保が必要だと思います。

- 90分制に戻れたらいいなと思います。60分のクラスは雰囲気が高校のようになってしまいます。60分ではどの科目でも深く掘り下げて学ぶことは難しい。60分でも問題が多いのに、更に2021年に50分のクラスになるという計画は馬鹿げています。教員がこんな計画を作るはずはなく、明らかに金銭的問題を考慮しただけのものです。4学期制は初めから今までずっとうまくいっていません。学生にとっても、事務職員さんにとっても、教員にとっても問題の多いシステムです。岡山大学はSDGsであるはずなのに、4学期制は増大するペーパーワークなどをみても、SDGsとは真逆をいくシステムです。
- 4学期制になったとき1500円の手当てに支給が始まりましたが、5年で終了するというものでした。50分授業になったとき、これはどうなるのでしょうか？1時間じゃないからといって、私たちの

時給は下げられてしまうのでしょうか？

- 現在の4学期制は教員と事務職員に今まで以上のプレッシャーをかけているだけです。私たちは皆ペーパーワーク、コンピュータ入力、クラスの運営管理などに追われています。講義も時間に追われ、復習や小テストの時間もなく、学生の成果を確認することもできません。
- 60分授業は既成のテキストブックではうまくいかないため、以前よりもっと授業準備に時間がかかるようになりました。また以前より多くの学生を担当することになり、採点などにもより多くの時間がかかり一時間当たりの労働量は増えています。
- 土日、盆、正月もない状態でこき使われて、挙句のはて大幅な年収ダウンは承服できるものではありません。こうした状況が続くならば、他大学へも呼びかけて一斉ストライキを行うべきです。(労働法定の違法状態を示すべき)
- 非常勤講師は、何校かかけもちで仕事をしていません。昇給も退職金もありません。社会保険料も自己負担です。現場は、各教員の努力だけでは対応しきれないほど、疲弊しています。教員が安心して、ゆとりを持って、教育に専念できる労働環境に(90分・セミスター制、手当の継続)戻していただきたいと希望いたします。
- 社会全体で非正規雇用の年金やボーナスの見直し(会社勤めの方)をしようとしています。学校や役所ではそういう動きはまったくありません。非常勤でも厚生年金や社会保険が欲しいです。

## 休暇に関する変更について

2020年4月から休暇に関して2つの大きな変更がありました。

### 1. 夏期一斉休業の廃止および、リフレッシュ休暇の導入



働き方改革により、2019年4月1日から使用者は、10日以上の有給休暇が付与される労働者に対し、毎年5日間の有給休暇を取得させることが義務付けられました。しかし、岡山大学は、この条件をクリアするのに苦労している状況のようです。大学は、その解決策の一つとして、年次有給休暇の「計画的付与制度」を導入しました。

この制度は、年次有給休暇の付与日数のうち5日を除いた残りの日数について、例えば付与日数が20日であれば最大で15日まで、労使協定の締結により、計画的に休暇取得日を割り振ることが

できるというものです。

鹿田地区事業場以外に勤務する教職員は、これまでお盆のころにあった夏期一斉休業が廃止され、代わりに年次有給休暇を計画的に付与されることとなります。付与される日付は、年度ごとに労使協定の締結により決定されます。今年度については、8月12、13、14日になっています。

ところで、夏期一斉休業の廃止は、3日間の特別休暇の消滅ということで、当然労働者の不利益変更にあたります。これを避けるために、4月1日～3月31日の期間で3日取得可能なリフレッシュ休暇(特別休暇)が新設されました。

なお、夏期一斉休業とは別に6月から10月の間に3日間取得できる夏期休暇(特別休暇)がありますが、これについては、これまで通りで変更はないとのこと。

休暇取得の時期ごとに新旧の違いをまとめると下の表のようになります。表を見ると分かりませんが、この変更は、休暇の名称が変わっただけで、労働者にとってはメリットもデメリットもありません。大学にとっては、年間5日間の年次有給休暇の取得義務違反で罰則を受けにくくなるという大きなメリットがあります。ここでよく考えたいのですが、本当に望まれることは、このような休暇制度の変更をしなくても年間5日間の年次有給休暇取得義務に対応可能な労働環境の改善なのではないでしょうか。

時期	お盆のころ	年間いつでも	6月～10月
旧	夏期一斉休業(3日)	年次有給休暇(20日)	夏期休暇(3日)
新	年次有給休暇の計画的付与(3日)	年次有給休暇(17日) リフレッシュ休暇(3日)	夏期休暇(3日)

※ () 内の休暇の付与日数は一例です。勤務年数などの条件により異なります。

コロナウイルス感染拡大防止のため、例年好評のフラワーアレンジメント講習会が開催できませんので、小田先生が誌上講習会をご寄稿くださいました。

## フラワーアレンジメント ～花瓶に活けた後は、フラワーリースにして楽しみましょう～



元気が出るビタミンカラーの花を、花瓶に飾りました。水は毎日替えて清潔に保ちます。水を替えるタイミングで、少しずつ茎をカットしていきます。数日後、花材を思い切って短くカットし、リース形のオアシスを使用したフラワーアレンジメントに、リメイクしました。

**【花材】** ガーベラ、スプレーバラ、アルケミラモリス、ソリダコ、ヒサカキ(斑入り)、ヘデラ等

**【花器】** 花瓶・皿

**【資材】** オアシス(吸水性スポンジ)



←リース用オアシス  
100円ショップにもあります。

**【フラワーリース】** オアシスに挿す部分の長さは1cm程度です。

## 2. 有給休暇付与基準日を4月1日に統一



常勤教職員については1月1日、非常勤職員については、着任時期によりまちまちであった有給休暇の付与基準日が4月1日に統一されました。変更の理由は、事務作業の効率化のためと聞いています。なお、変更に伴い不利益が生じないよう特例処置がとられており、年休の繰越期間が変更されています。令和3年度の年次有給休暇の付与では、最大で40日が前年度から繰り越されます。

- ① お皿の中央に、たっぷり水をふくませたオアシスを置きます。
- ② 葉ものを、オアシスに挿していきます。リースの内側もオアシスが見えないように隠します。
- ③ 花(ガーベラ等)を、配置します。上や横から全体をぐるりとチェックしてみて、オアシスがうまく隠れていて、バランスの良いアレンジメントになっていれば、完成です。



<ポイント>

- ◆ **花**: 茎は、水の中で斜めにカットします。
- ◆ **オアシス**: バケツ等にたっぷり水をためて、オアシスを静かに浮かべます。自然に吸水するまで、触れずに待ちます。上から水をかけたり、押さえたり、無理やり沈めないでください。リース形のオアシスは、縦に(立てて)水に入ると良いと思います。

♡ 花瓶への投げ入れもオアシスを使うアレンジメントも、難しく考えないで、楽しい気持ちで花に触れていただけたら嬉しいです。

(講師: 小田泰子)

## ローカル線で行く！フーテン旅行記

### 第72回

#### マタギの里を走る！ 秋田内陸縦貫鉄道

工学部職員組合 大西孝

山にこもり狩猟を生業としてきたマタギ。奥羽山脈が走る秋田県の北部にはマタギの集落がある阿仁（あに）町（現在は合併して北秋田市）があります。この地域を南北に走るが、秋田内陸縦貫鉄道です。今回は、阿仁マタギの里を走る列車の旅をご紹介します。

秋田内陸縦貫鉄道は、秋田県北部の鷹巣（たかのす）駅から、県の中東部に位置する角館（かくののだて）駅を結ぶ100km近い長大路線で、国鉄の赤字ローカル線であった阿仁合（あにあい）線と角館線を引き継ぎ、1986年に第三セクター鉄道として発足しました。南北に分かれていた両線を結ぶ29kmの区間の工事は国鉄時代に中断されていましたが、第三セクターへ転換した際に工事を再開し、1989年に全線が開通しました。沿線は過疎化が進み、厳しい経営を迫られながら、ディーゼルカーが深い山の中をぬって走ります。

鷹巣駅は、秋田からJRの奥羽線で1時間半ほど北上したところにある小さな駅です。この駅での列車の接続は必ずしも良くないことがあり、1時間以上待つ場合もあります。そんなときは、10分少々歩き、スーパーマーケットへ行ってみましょう。「いとく」という秋田県に点在するスーパーでは、大館駅の名物駅弁「鶏めし」を販売しており、大館まで行かずとも購入できます。この駅弁は戦後すぐから売られている歴史あるもので、赤い包み紙を開けて頬張ると、甘辛く味付けされた鶏肉と口当たりの良いそばろ卵が何とも絶妙で

す。これまで、多くの鶏飯（高崎、宇都宮、小倉、折尾の各駅）を取り上げてきましたが、大館の「鶏めし」は甘口で優しい味と評しておきましょう。

鷹巣駅に戻り、角館行きのワンマンカーに乗車します。途中の阿仁合駅までは、比較的開けた田んぼの中を走りますが、線路は山に向かって高度を上げるため、ディーゼルカーのエンジン音がにぎやかです。沿線の田んぼでは、竿灯や秋田犬、なまはげ等の田んぼアートが描かれ、退屈することがありません。また、途中の駅の横には製材された秋田杉がうず高く積み重ねられ、林業が盛んなことも分かります。鷹巣駅から1時間ほどで到着する阿仁合駅の駅舎は、三角形の屋根を持つ特徴的な建物です。この駅のレストランでは、地元出身のシェフが考案した馬肉料理が味わえるそうで、時間があれば途中下車するのもよさそうです（ただし、次の列車が3時間以上来ない時間帯もあり、注意が必要です）。阿仁合線の終点だった比立内（ひたちない）駅を出ると、第三セクター発足後に開通した区間に入り、秋田杉の林の中を列車は峠に向けて走ります。比立内から2つ先の駅は、その名もずばり「阿仁マタギ」。山に囲まれた駅ですが、やや離れたところにマタギ資料館やクマ牧場などがあります。この先の長いトンネルを抜けると下り坂に転じ、かつては角館線の北端だった松葉駅を経て列車は軽やかに走ります。鷹巣から約2時間半、秋田新幹線と並走すると、終点の角館に到着しました。阿仁合までは10名程度いた乗客も、そこから先の山間部の区間に入ると5名以下で、過疎地域を走る鉄道の現実を思い知らされました。一方で沿線の景色は美しく、今度はゆっくり途中下車してみたいという気持ちになる路線でした。



秋田内陸縦貫鉄道のディーゼルカー。1両だけで走る列車がほとんどです。



阿仁マタギ駅の周辺。線路の左には直立した秋田杉が見えます。



列車から楽しむ田んぼアート。これは秋田犬が竿灯を演じているというもので、秋田らしい組み合わせの作品です。



鷹巣から2時間半で角館に到着。秋田新幹線と秋田内陸縦貫鉄道の列車（左）が顔を合わせます。